

エンジョイ読書

目利きが選ぶ今週の3冊

★★★★これを読まなくては損をする、★★★
★★★読みごたえあり、★★価格の価値はあり、

陳野俊史
批評家

中沢孝夫
福井県立大特任教授

昼が夜に負うもの
ヤスマナ・カドラ著

紛争地の人々の生活を鮮やかに描き出す作家ヤスマナ・カドラの最新作。今回は自身の故国アルジェリアが舞台。血みどろの戦争を背景に少年たちの絆を描く。藤本優子訳。(早川書房・2100円)

★★★★★

グローバル化経済の転換点
中井浩之著

グラフや表の作り方が素晴らしいのである。それによって日本をはじめとする各国の歩みがよくわかるのだ。世界の相互依存関係の内実が転換点をむかえているようである。(中公新書・840円)

★★★★★

ボーダー&レス
藤代泉著



ブルーシート
浅尾大輔著

雑誌「ロズジェネ」の編集長はもともと「新潮新人賞」の受賞歴もある小説家。その受賞作も収録した第1小説集だ。社会の圧力に苦しむ登場人物たちが印象的。(朝日新聞出版・1800円)

★★★★★

営業は感情移入
横田雅俊著

他人の置かれている状態を理解し、自分を相手の立場に置いて感情を分かち合うことを説くトップセールスの極意。大切なのは精神的な余裕だ。(プレジデント社・1143円)

★★★★★

リフレクティブ・マネジャー
中原淳・金井壽宏著



★★★★★

リフレクティブ・マネジャー

本書によると「一学業に成果を見いだせない大学生は、大学生活の満足度も低い」そうだ。世の中には「だれがやっても楽しくない仕事」もあるが、なるべくなら仕事に意味を見いだしたいもの。人材育成は企業の永遠のテーマであり、個人にとっても自己の成長は生涯の課題だが、本書はリフレクティブ・マネジャー(内省)をキーワードに、マネジャーとその準備軍のため、さまざまな角度から「学ぶ」ことの方法論を検討し、提唱したものである。

著者は「自発的にやれ」

本書によると「一学業に成果を見いだせない大学生は、大学生活の満足度も低い」そうだ。世の中には「だれがやっても楽しくない仕事」もあるが、なるべくなら仕事に意味を見いだしたいもの。人材育成は企業の永遠のテーマであり、個人にとっても自己の成長は生涯の課題だが、本書はリフレクティブ・マネジャー(内省)をキーワードに、マネジャーとその準備軍のため、さまざまな角度から「学ぶ」ことの方法論を検討し、提唱したものである。

著者は「自発的にやれ」

大人が学ぶ意味 ひしひしと

「人生の正午以降に、真の個性化が起こる」という美言は、ほげまされる言葉が登壇しているが、たしかに部分的にはあつても自分を愛することはできるのだ。そのため「学ぶ」という行為を、超え感境で学ぶ必要もあるのだ。(中沢孝夫)

1960年代から70年代初めにかけて、日本は好景気にわいた。それに付随してさまざまな文化が台頭し、事件も起こった。若者文化が流行し学生運動も活発に。社会そのものが活動的な時期だった。それをはっきり示すイベントもいくつか。64年の東京オリンピックと70年の日本万国博覧会が、その代表だろう。活気に満ちた時代の象徴として人々に記憶される。同時にそうした行事は、当時多岐の社会風俗をも生み出す。

マンガの時代 竹内 オサム

博文監督だった。その指導方法が過酷で、日本の土着的な精神主義が賞美され話題となった。監督の「おれについてい」「なせば成る」などの本がベストセラーに。そのため「根性」という言葉が60年代後半に流行し、観光地でも「根性」と書いた置物が登場するまでに。68年から「週刊マガレ」に連載の始まった浦野千賀子の「アタックNo.1」も、時代の波をものろに受ける。文字とおりアタックのバレーボールを扱ったスポーツマンガだった。中学と高校のバレーチームを舞台に、思春期の悩みや喜びを熱く描き大ヒット作となる。

浦野千賀子「アタックNo.1」(1968~70年)

物語は、虚弱な体を治すため、東京の名門中学から富士見学園に転校した少女、鮎原こすえを中心に展開。中学2年のこすえは他校のクラスメートともいっしょに、同校のバレーチームと対戦する。いざいざを繰り返しながら、



「アタックNo.1」が人気となったのは、アタックを反映する一方で、読者である少女たちの日常を、作品にダイレクトに描きこんだからに依らない。友人同士の嫉妬、友情、恋愛、それに

「スポ根」少女素顔に共感

ベストセラー

- ① 排出権商人 黒木亮著 (講談社)
- ② 小太郎の左腕 和田竜著 (小学館)
- ③ 1Q84 (BOOK 1・2) 村上春樹著 (新潮社)
- ④ 末路峰 笹本稜平著 (祥伝社)
- ⑤ のぼりの城 和田竜著 (小学館)
- ⑥ いさご波 安住洋子著 (新潮社)
- ⑦ ゼロの焦点 松本清張著 (光文社)
- ⑧ ソウル・コレクター ジェフリー・ディーヴァー著 (文芸春秋)
- ⑨ 阿修羅 玄侑宗久著 (講談社)
- ⑩ 吠う合戦屋 北沢秋著 (双葉社)

(11月15日から11月21日まで、東京・八重洲ブックセンター本店)

読書日記

囲碁棋士 梅沢 由香里 ④

来月の筆者は、ノンフィクション作家の澤宮優氏です。

カサノ、堀江美津子、F.U.F. 文庫「ルワンダ」で起きた民族紛争の中、トイレット3カ月も身を隠し、奇跡的に生き延びた女性の現実の物語だ。素晴らしい両親と兄弟に囲まれて育った彼女は、「悪魔」に心を奪われ、人々に家族を殺されるという過酷な運命に見舞われる。だが驚き、藤原が自ら殺戮者を許し、前向きに生きていく。悲壮感はない。読後には勇氣と力強さを得られたように感じた。心には時に相反する2つの気持ちがある。どちらを選択するにしても、選択した気持ちはなれる方法がある。この本は教える。こうした出合いも父のおかげ。父は囲碁にはとても厳しかったが、今は心から感謝している。

西原理 増殖 100th 講談社 創業100周年 図書カードプレゼント実施中 2枚 米田雄一 杉本一 興亡の世界史 What is Human History? 全21巻 大好評4刷 清家 60